教	(科	科目		単位数	開講学年	必修/選択	授業形態					
围	語	現代の国語		2	ı	必修	講義	演習	実習	その他		
		教材費・準備物等					進足	各・資	格・興	味・関心など		
教科書、ファイル、国語辞典					言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成ことを目指す。 実社会に必要な国語の知識や技能を身に何 の知識 対能							
科目概要	評価し	ますので	ます。授業の中でで、 、積極的な参加やは 寧に取り組みまし、	出席、提出	評価観点	思考	たりす 合う力	る力を	·伸ばし)、自分	深く共感したり豊かに想像し、他者との関わりの中で伝えいの思いや考えを広げたり深めるようにする。		
						主体的態度	にわた の言語	って読	語に新 担い手	認識を深めるとともに、生涯 !しみ自己を向上させ、我が国 ·としての自覚をもち、言葉を 関わろうとする態度を養う。		
		べき科目 でき科目	なし なし		評価方法		スト 物 時の	学習状 を総合		断の上、評価する。		

教	科	科目	単位数	開講年次	必修/選択				授業形態
国	語	言語文化	2	2	必修	講義	演習	実習	その他
	:	教材費・準備物等				_	•	各・興	│ 味・関心など
	言語文化の	ス、国語辞典 授業では、小説、古ご ります。古文、漢文(力を高	めると 、進ん	ともいて表現 る態 生涯に	こ、見すを を た	考力や こと てる。 る社会	る能力を育成し、伝え合な想像力を伸ばし、言語感動は、なって国語の向上や社会会生活に必要な国語の知識をとともに、我が国の言語を
科 目 ::	が、基本では一大ないが、基本では一大学にはいいでは、一大学には、一大学には、一大学には、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学をは、大学を	んだのかが人によってな内容から始めます。 な内容から始めます。 れくらい学んだかにないと出席して、授 りと取り組むようにし 査だけではなく、提し 取り組みも大きく成れ	、そのため、 かかわらず、 業の中での活 してくださ 出物の状況や	評価観点	技思判表	する。 論理的 したり 伝え合	りに考え) するえ よう力を	える力 [,] 力を伸し と高め,	深めることができるように や深く共感したり豊かに想像 ばし,他者との関わりの中で 自分の思いや考えを広げた とができるようにする。
概	す。			•	主体的態度	涯にネ が国σ	たっ ⁻)言語: 通し ⁻	て読書(な化の)	の認識を深めるとともに, 5 に親しみ自己を向上させ, 5 担い手としての自覚をもち, や社会に関わろうとする態度
	履修すべき和 履修すべき和			評価方法	・小う ・提出 ・授業	は物 美時の			断の上、評価する。

±16-1	C-J	서비	77 \T #F	nn ># 4 /					±∞ ₩ π/ 台C		
教	P4	科目	甲似釵	開講年次	必修/選択	> 1 - 1			授業形態		
国記	語	言語文化	2	3	必修	講義	演習 O	実習	その他		
		費・準備物等	<u> </u>			•	_	各・興	 味・関心など		
教科書、ファイル、国語辞典					言語文化は、小説、古文、漢文が主な内容になりまで、漢文は昨年度得た知識をもとに読解に取り組みそのため、昨年度の取り組みを振り返っての復習に組みながら、授業にしっかりと出席して、授業の中動にしっかりと取り組むようにしてください。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の独技能を身に付けるとともに、我が国のでは、技能を身に付けるとともに、我が国のでは、対が国のである。						
科 ^注	ながら、授業に 中での活動にし ください。定期 状況や授業態度 響します。	にして 出物の	評価観点	判断	像した 中で伝	りす。 えた合	る力を う力を	や深く共感したり豊かに想伸ばし,他者との関わりの 高め,自分の思いや考えを することができるようにす			
要	•••				主体的態度	生涯に せ, 我 をもち	こわた。	って読 の言語	の認識を深めるとともに, 書に親しみ自己を向上さ 文化の担い手としての自覚 して他者や社会に関わろう。		
	履修すべき科目 履修すべき科目	評価方法		-スト 物 時の			断の上、評価する。				

教	科		科目	単位数	開講年次	必修/選択	授業形態				
国	五		実用国語		3	選択	講義	演習	実習	その他	
	60		天用凹品	'		迭扒	0	0			
	教材費・準備物等					!	進出	各・資	各・興	味・関心など	
ファイ	ハル、国	国語辞典、	副教材(ワーク購)	(あり)	日本語	の実践的	内な運用	用能力:	を高める	る。高等学校で習う漢字の読み	
								_	-	ける論文指導や他人の意見、現	
										いった実生活に基づいた文章を	
					読み、	自分の対	急見を打	寺ち、き	表現で	きるようになることを目指す。	
	実用国	語の授業:	では、普段の生活で	`必要な実			漢字を	とはじ	め、慣	用表現や現代用語、熟語や	
	践的な	国語力を	育みます。そのため	、自己表			文法な	よどを	正しく	理解し、活用できる。ま	
	現する	機会を増		技能	た、ゴ	た、文脈に応じた文章表現ができる。					
	や演習	、文法事」	学びを深	誌を 証							
	めます	。語彙や流	や雑誌を						を文章にし、人に伝えるこ		
	読むこ	とで、社会	会にも目を向け、実	、実用的な学	価	思考	-			、様々な表現手段を理解	
科	びに繋げます。自己の意欲的な学びが必			が必要と	観	判断表現			じた表	現方法を活用して自己表現	
_	なる科目です。定期考査だけではなく、提出					点	ができ	きる。			
概	物の状	況や授業	きく成績	· ////		白分0)将来	象を描	き、自分自身と向き合い、		
		します。				÷ # #				とができる。また、社会に	
						主 体 的 態 度				分野に関心を持つことがで	
						16172	きる。		14, 0	NEW CENTRE	
						. 4- 44					
						・定期考査					
							・小テスト				
					価 方	・提出). 			
前年度	前年度履修すべき科目 なし		法			学習状					
継続で	履修す	べき科目	なし			以上	全て	を総合	的に判	断の上、評価する。	
					2						

教科	斗	科目	単位数	開講年次	必修/選択				授業形態		
国部	吾	国語探究	2	4	必修	講義		実習	その他		
	4.0	1 1 - 15 - 2 <i>le 11 le le</i>				0	0				
		(材費・準備物等							味・関心など		
ファイ	ル、国語辞期	Ų		漢字や語句の意味への知識を深めるべく毎授業オリジナル							
									文法の理解を深めること		
								、より	洗練された文章を書けるよ		
				うにす	ること	を目打	旨す。				
	国語探究の授	業では、普段の生活にも	通じる			漢字を	はじ	め、慣	用表現や現代用語、熟語や		
5	実践的な学び	に取り組みます。また、	教科書		知識	文法な	こどを	正しく	理解し、活用できる。ま		
l	よありません	が、読み物教材等も使用	し、た		技能	た、メ	て脈に	応じた	文章表現ができる。		
1 1	だ実践的な学	びを行うだけでなく、読	解力や		171.10						
		ます。定期考査だけでは				<i>4</i> // -	. m +v	· + m	44711		
l k	是出物の状況	大きく	評					を文章にし、人に伝えるこ			
F	成績に影響し			価	思考判断			_	、様々な表現手段を理解		
科				観	表現			じた表	現方法を活用して自己表現		
目				点	12.76	ができ	5 3				
概						白分の)将李	像を描	き、自分自身と向き合い、		
要						老さる		-	とができる。また、社会に		
					主体的				分野に関心を持つことがで		
					態度	さる。	31//	13. 0	ガガに関わると同うととかく		
						2 20					
					・定其	□ B老杏					
				評	・小ラ						
				価	・提出	•					
前午庄 5	覆修すべき科[ョ なし	方	J. J.	は時の気	头涵	* D				
				法					断の上 証価する		
継続て	覆修すべき科[以上全てを総合的に判断の上、評価する。								